

I. 『精華町史 本文篇』

精華町史編纂委員会編 精華町 1996年

章 節	目 次	ページ
口絵	馬形の吊り手を飾る須恵器提瓶 馬形の吊り手を飾る須恵器提瓶 東寺高僧の祝園滞在を示す「即身義密談鈔」 本 奥書（東寺観智院金剛藏聖教） 幕末以来の地域の歴史を記録し続けた松田弥三郎 の著書	
題字	門脇禎二	
見返し	畑ノ前遺跡復元図 (平良泰久原案・早川和子作画)	
あいさつ	精華町長 大崎 鉄平	
はじめに	京都橘女子大学長 門脇 禎二	
序章 風土		
第一節	日本の中心を占める町	2
第二節	精華町の自然 河谷と丘陵が織りなす地形 丘陵と平野ができた過程 気候の特色	5
原始・古代編		
第一章 精華のあけぼの		
第一節	狩猟と採集の時代 人類の誕生 列島にやってきた人々 旧石器時代 南山城の旧石器 有茎尖頭器の時代 土器の出現 縄文草創—移動から定住へ— 縄文形成—定住と生活領域— 縄文成熟—村の生活— 縄文転成—植物栽培の芽ばえ—	22
第二節	稲作文化の始まり 縄文から弥生へ 弥生文化の伝播 弥生人の生活用具 南山城の開拓 畑ノ前遺跡 土器の地域色 石器の地域色	37

水田と田植え
弥生人の祭り
銅鐸を祭る村
石の武器形祭器
後期の集落
高地性集落と戦乱
南山城の通信網
方形周溝墓
大形化する墳丘墓

第二章 精華の古墳時代

第一節 前期古墳と首長の台頭 65

古墳の出現
椿井大塚山古墳と三角縁神獸鏡
首長墓の系譜
相楽の首長墓系譜
精華町の前期古墳
前方後円墳だった瓦谷古墳
古墳の階層性
首長の館と民衆の村

第二節 中期古墳と南山城の王 85

巨大古墳と倭の五王
南山城の王墓
平川王家の南山城支配
丸山は大前方後円墳か
精華町最初の考古学者
幻と消えた古墳
相楽の首長墓
相楽南東部の首長墓の推移
よそから来た首長墓
平谷（薬師山）古墳群
鞍岡山古墳群
帆立貝形の古墳群
生活の変化

第三節 後期古墳と権力の再編 104

南山城の王墓の消滅
継体大王と淀川水系
後期の前方後円墳
横穴式石室の導入
墓制にみる保守と革新
竪穴系横口式石室と渡来系氏族
横穴の分布と大隅隼人
古墳・横穴が同居する古墳群
陶棺の分布と石室・横穴
精華町の後期古墳

	畑ノ前古墳群	
	畑ノ前東古墳群	
	古墳群の構成	
	石室の特色	
	東海地方の川原石積石室	
	稲蜂間と味蜂間	
	古墳の終末	
第三章	古代の精華	
第一節	古代史のあけぼの—律令以前—	136
	祝園（波布理曾能・柞ノ杜）の地名伝承	
	渡来人の移住	
	壬申の乱と南山背	
第二節	大宝律令の成立	145
	律令国家の成立と精華町域	
	相楽郡令掃守宿禰阿賀流	
第三節	平城遷都と律令制の展開	152
	平城遷都と新駅の設置	
	恭仁京への遷都	
	大安寺の所領	
	木津川の水運	
	和気王の反乱	
第四節	奈良時代の遺跡	164
	渡来人の寺	
	稲蜂間氏の館、畑ノ前遺跡	
	離宮か、寺か、樋ノ口遺跡	
	奈良山の官営瓦工場	
第四章	貴族政権の成立と精華	
第一節	山背遷都	176
	長岡・平安京への遷都	
	藤原百川とその墓地	
第二節	班田制の変容	182
	職田の設定	
	土地所有の変動	
	祝園神の封戸	
第三節	律令制の変容	188
	平城上皇の通過	
	新しい政治の展開	
	神階の叙位	
	狛人野宮成の京貴	
第四節	貴族政権の展開と春日詣	195
	貴族政権の成立	
	法勝院領大狛庄	
	春日参詣	
	堀河天皇の春日行幸	

	延久の新政と稲八間庄	
	枕詞としての波々曾乃毛利	
	古代末期の杵杜	
第五節	町域と周辺の古代地理	215
	古山陰・山陽道と行基の古道	
	山陰・山陽併用道の成立	
	山陰・山陽併用道の道筋	
	恭仁京時代の東西要路	
	東西・南北要路交点と山田寺	
	条里制の概要	
	綴喜郡・相楽郡条里の坪並	
	相楽郡固有里名の比定	
	添下郡条里と国界の移動	
第五章	古代・中世の仏教美術	
第一節	九世紀の仏像	252
	神仏混淆の仏像	
	その他の九世紀仏像	
第二節	一〇世紀——一世紀前半の仏像	256
	一〇世紀初めの作例	
	一〇世紀前半の作例	
	一〇世紀末の作例	
	一一世紀前半の作例	
第三節	一一世紀後半——一二世紀の仏像	263
	一一・一二世紀の諸像	
	智証大師の肖像	
第四節	鎌倉・室町時代の仏像	269
	快慶風の三尺阿弥陀像	
	鎌倉時代阿弥陀像三例	
	在銘の不動像	
	模古作一例	
	宿院仏師の作品	
	その他の室町時代の仏像	
中世編		
第一章	中世社会の成立と精華	
第一節	「武者の世」の到来	278
	保元の乱と精華	
	中級貴族の春日社参詣	
	精華に住んだ人々	
第二節	南北朝内乱下の精華	290
	元弘の変と南山城	
	杲宝・賢宝と祝園	
	応安四年の神木動座	
第二章	室町時代の精華	

	第一節	在地武士団の登場 山城国守護の入り 東大・興福両寺の争い 山城衆の奮戦と死	301
	第二節	町域荘園の構造 祝園荘をめぐる争い 菅井荘の構造 幕府料所稻八妻荘 武内神社の棟札	313
第三章	応仁の乱と山城国一揆		
	第一節	大乱の展開 大乱の原因 畠山氏の分裂 畠山の家督義就 畠山義就の南山城進攻 畠山政長の登場 畠山義就の上洛 上御霊社の合戦 大乱の始まり 山田の中黒氏と下粕の大南氏 大内氏の南山城進攻 下粕の大北城 下粕の合戦 畠山義就の河内下向 下粕開城 細川政元の摂津出陣 畠山義就の山城再入国	331
	第二節	山城国一揆 両畠山の対陣 厭戦気分の広まり 国一揆への始動 国人集会 両軍去状 国一揆掟法 惣国の組織と半済 惣国の政治 国一揆の崩壊 稲屋妻合戦	360
第四章	南山城の戦国争乱		
	第一節	争乱の展開 古市澄胤の南山城支配 沢蔵軒宗益の大和進攻 沢蔵軒宗益の南山城支配 大和国一揆	395

	山田・相楽の合戦	
	山城国守護大内義興	
第二節	戦国時代の大北氏	410
	大北氏の土地寄進	
	大北加賀守勝	
	大北源三郎	
	大北氏の一族	
	大北氏の終焉	
第三節	戦国時代の城郭	428
	戦国時代の城館	
	山城国一揆の城館再考	
	精華町内の中世城館跡	

近世編

第一章	近世社会の成立	
第一節	近世の開幕	448
	信長・秀吉と南山城	
	太閤検地	
	江戸幕府の成立	
第二節	精華町域の領主たち	452
	山城国相楽郡の特徴	
	天野・大原氏	
	旗本高木氏	
	野々山・上田氏	
	大岡氏	
	朝倉・箕・林・五味氏など	
	淀藩領と天領	
	禁裏御料と公家領	
	寺社領など	
第二章	支配の仕組み	
第一節	複数領主の村支配	467
	支配を巡る諸問題	
	領主別の耕地絵図	
	領主別の土地台帳	
	百姓の領主別の分属	
	村役人の組織	
第二節	年貢の収納	483
	瑞龍寺領の年貢	
	中後期の年貢と荒れ引き	
第三節	旗本領の在地代官	490
	旗本と在地代官	
	福井氏と大岡氏	
	年貢収納関係	
	紛争解決など	

	江戸状	
第四節	公儀の広域行政 国役堤の管理など 広域行政のいろいろ	501
第三章	村の世界	
第一節	精華町域の村々と成業 農民の村 耕地の様子 農作物など 綿と菜種	508
第二節	北部地域の村々 菱田と滝ノ鼻 下粕郷四カ村	517
第三節	中部地域の村々 祝園村 北稻八間村 菅井・植田・南稻八妻	523
第四節	南西部の村々 山田三カ村 東畑村	532
第四章	山野と水	
第一節	煤谷山をめぐる相論 村と山野利用 入会山相論 普賢寺との郡境相論 土砂留めと煤谷山 煤谷山下草刈り透き 菱田村の平谷相論	536
第二節	木津川の水害と治水 木津川の洪水 正徳の洪水 享和の洪水 文化の洪水 安政の洪水 洪水の対策 天井川と土砂留め 煤谷川の洪水 米つき水車	549
第三節	水論と山論のいろいろ 菱田と下粕の用水相論 山田池と長期の水論 祝園村の水論 北稻八間村の悪水	561

	溜池の築造	
	植田村の溜池利用	
	東畑村の山論	
	下粕村の年貢山	
	菅井村と植田村の山論	
	北稲八間村の新開	
第五章	寺社と庶民の生活文化	
	第一節 宮座と村の民俗行事	572
	東谷神社の宮座行事	
	下粕村の宮座と行事	
	菱田村の宮座と弓始	
	北稲八間村の年中行事	
	第二節 寺社と講	585
	精華町の寺院	
	菱田村の薬師寺	
	北稲八間村の岡本寺	
	村と寺院	
	鞍岡神社の再建	
	武内神社の造営	
	村の講	
	神輿太鼓の奉納	
	南山城三十三箇所	
	来迎寺と「心中宵庚申」	
第六章	幕末の精華	
	第一節 村落社会の変容	600
	困窮者の救済	
	儉約の奨励	
	領主財政を支える村	
	度重なる借金要請	
	商工業の発達	
	第二節 村方騒動	610
	識字と村方騒動	
	村人の村政参加要求	
	第三節 幕末の世相	613
	天保の飢饉と大塩の乱	
	江戸の情報・京都の情報	
	異国降伏祈願	
	お蔭踊り	
近代編		
第一章	村の明治維新	
	第一節 村の変容	622
	京都府の成立	
	地租改正と森島清右衛門	

	煤谷山争論の終結	
第二節	小学校の誕生	629
	寺子屋から小学校へ	
	小学校の建設と保護	
	小学校の変遷	
	町村制下の小学校	
	小学校の就学率	
第三節	田舎紳士の群像	638
	新知識の獲得	
	雑誌と情報	
第二章	近代の展開	
第一節	村と区	644
	町村制の公布	
	村役場の開設	
	区有財産と基本財産	
第二節	農業と養水	654
	村誌に見る産業	
	旱害と養水	
第三節	伝染病とのたたかい	660
	衛生費の変化	
	予防と救助規定	
	伝染病と隔離病舎	
第四節	村の戦争	668
	兵役と忌避	
	従軍と留守家族	
	日露戦争下の村	
	軍隊宿泊	
第五節	村の娯楽	676
	さまざまな興行	
	盆踊と相撲・遠足	
	幻燈の人気	
第三章	日露戦後の村と農業	
第一節	交通・通信網の発達	684
	渡船	
	鉄道	
	郵便と電話	
第二節	治水と利水	693
	水害と対策	
	木津川治水会	
	永谷隧道の完成	
第三節	農業の発展	700
	産米改良と農会	
	副業の奨励	
	動力機の導入と大旱魃	

	小作争議の拡大	
第四節	学校教育の拡充と青年層 青年層の動きと青年組織 精華高等小学校 教育内容の充実と校舎の増築	723
第四章	農村不況から戦時体制へ	
第一節	川西村の誕生と農業不況 地方改善事業 川西村の誕生 農業不況前後の農業	742
第二節	戦時体制下の村 青年学校と農道館 銃後組織と戦時下の暮らし 祝園陸軍弾薬庫	767
第五章	戦後社会の変貌と村の歩み	
第一節	戦後改革と新制中学校 敗戦後の農村状況 農地改革 精華中学校	786
第二節	精華村から精華町へ 精華村の成立 供出をめぐる動き 町制施行へ	800
終章 精華町のいま・みらい		
第一節	人口と集落—どこに住むか 人口の変化 集落の発展 居住構造の変化	810
第二節	産業と職場—どこに働くか 就業構造の変化 農業の変化と現況 商工業の発展 商業 工業 サービス業Ⅰ サービス業Ⅱ 建設関連業 消費者の動き—どこで買うか	824
第三節	交通と新しい都市—日本の、世界のなかの精華町 交通の発展 西部・南部丘陵の開発と変貌 おわりに	858

付録

史料提供・協力者一覧

執筆委員

執筆分担

索引

図・表・写真一覧

年表

精華町選出府会議員

精華町選出郡会議員

歴代村長（昭和三〇年以前）

旧村歳出決算額の推移（明治二二年～昭和三〇年）

精華町の都市発展（別添地図）

◎京都府内市町村史・誌情報へのリンク

京都府立総合資料館「京都府内市町村目次集」

<http://www.pref.kyoto.jp/kaidai/mokuzi-index.html>